

医療 DX

超高齢社会を迎えている本邦において、労働人口減少への対策など、あらゆる業種においてデジタルトランスフォーメーション（DX）の重要性が高まっている。なかでも医療 DX 推進は国家としての大きなテーマとして掲げられており、医療 DX 推進本部の設置、そして医療 DX 令和ビジョン 2030 の実現のために様々な施策が講じられている。

一口に医療 DX といっても、その内容は極めて多岐にわたり、保健・医療・介護のデータ連携・共有化による個人の健康増進、医療従事者の業務効率化、医療機関の経営効率化などに大きな影響を及ぼすことが期待されている。

今回の特集号では、このような医療 DX に関して、医師のみでなく多くの専門家の方々にご執筆いただいた。その全体像を把握するためには様々な切り口が必要と考え、政府としての医療 DX の考えとその取り組みを皮切りに、開業医の先生の成功事例紹介、病院の各部門（病棟、薬剤部、手術室、勤怠管理）での取り組みを多職種の視点から、各専門分野における DX の現状の紹介（脊椎、膝関節、股関節、手外科）、各種アプリ（整形外科医向け、患者向け）の紹介、メタバースによる患者体験向上の可能性、そして米国での医療 DX 事情などをトピックとしてご執筆いただいた。

様々なトピックを取り上げたため、読者の先生方に雑多な印象を与えてしまうことを懸念したが、全体として、現段階における日本、そして整形外科における医療 DX の現状の一端が理解できる特集になったと考えている。極めて多忙ななか、素晴らしい原稿をご執筆いただいた執筆者の方々に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

COVID-19 によって日本のデジタル環境は 10 年単位で早まったと言われ、読者の先生方も DX の流れが加速度的に進んでいることを実感していらっしゃるのではないかと思います。すべての人々に DX の恩恵はあると私は信じています。既に DX に取り組んでいる先生、これから DX に取り組もうとされている先生、すべての先生方に本特集が少しでもお役に立つことを願っております。

（森崎 裕）